



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週 報

2012～2013年度 RI会長 田中 作次
RIテーマ Peace Through Service 奉仕を通じて平和を

クラブテーマ「チ・カ・ラを出そう」会長 太田政人

副会長 山本良一 幹事 石井司人

第1134回 例会 2013.4.26(金)晴

司会:石井和郎君 指揮:久保栄子君
ロータリーソング「それでこそロータリー」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 ブケ東海三島

TEL.055-984-0120
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 太田政人君



皆さまこんにちは、今日は何の日
でしょうか、27年前の1986年の今
日4月18日、旧ソ連のウクライナに
あるチェルノブイリ原子力発電所
で重大な事故が起きました。4号
炉の試験運転中で異常事態が発

生したものの、原子炉が構造的な欠陥があったにもかかわらず試験運転を続行し大きな爆発を引き起こしてしまいました。消火作業に従事して死亡した27名の遺体は被曝がひどく大量の放射線を放出しているため通常の埋葬はできず鉛の棺に納められモスクワに埋葬されています、4号炉は今では石棺で覆われていますがその耐久年数は30年とされ老朽化がめだち新たな石棺が計画されている状況で後始末に苦慮しています。メルトダウンを引き起こした原子力発電所事故は3件でこのチェルノブイリと1979年のアメリカスリーマイル島原発と2年前の福島第一原発で、国際原子力事象評価尺度(原発で起きたトラブルが安全上どのような意味を持つかの尺度、レベル0～レベル7)ではスリーマイルがレベル5でチェルノブイリと福島が最悪のレベル7になるそうです。スリーマイルとチェルノブイリは明らかに人災ですが福島は地震・津波による事故ですが想定外を想定できなかった人災でもあります、原発事故の長期化と恐怖しさを思い知らされています、二度とこのようなことが起こることの無いようにと祈っています。ありがとうございました。会長挨拶といたします。

ようこそせせらぎ三島
ロータリークラブへ

川平和秀さん(岡君のゲスト)

松永 彩さん(岡君のゲスト)

出席報告

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	30/33	90.91%	32/33	96.97%
今回	29/33	87.88%	会員総数	34名
欠席者 あなたが見えなくて残念でした。				

大房君、片野君、鈴木君

おめでとう

会員誕生日	4月28日 遠藤修弘君
	4月29日 石井邦夫君
入会記念日	4月30日 土屋 巧君



支援と自助努力

松永彩さん

グローバル社会の目標

ミレニアム開発目標(2001)・・・世界の共通目標

1. 極度の貧困と飢餓の撲滅
2. 初等教育の完全普及と達成
3. ジェンダー平等推進と女性の地位向上
4. 乳幼児死亡率の削減
5. 妊産婦の健康の改善
6. エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止
7. 環境の持続可能性確保
8. 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

日本のアフリカ観

○イメージ・・・紛争？貧困？

○日本政府

アフリカと友好関係を築くと・・・

- ・日本外交の基盤強化につながる
- ・アフリカの豊富な天然資源の供与が期待できる
- ・約10億人の市場が日本企業にビジネスチャンスをもたらす

(外務省パンフレット2010)

アフリカの概要

世界全体における位置づけ(出典:国連人口基金)

- ・国の数 54カ国(約28%)
- ・人口 約10億1990万人(約15%)
- ・面積 約3000万Km²(約23%)

○サハラ以南アフリカでは、全人口の半分以上が1日1ドル以下で生活している

青年海外協力隊とは

- 日本の政府開発援助(ODA)による技術協力
- 国際協力機構(JICA)を通して派遣
- 初代隊員がラオスに飛び立ってから今年で47年
- 3万6000人以上が世界88カ国で活動した
- 2013年4月現在、71カ国で1879人が活動中
- 3ヶ月弱の派遣前訓練がある
- 帰国時に、積立金が200万円程度支給される

考えさせられたこと

- 欲しがれば、与えるのか？
- 与えれば相手が助かるのに、与えないのか？
- 与える事ができる立場なのに与えないのか？
- 与える時に、どんな条件を付けるのか？

自助努力を促す支援

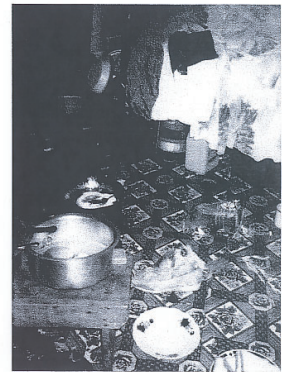
- 本当に求めていることであれば、努力ができる。そして、努力が続く→ニーズを見極める事の大切さ
- 努力の仕方や方向性がわからない場合がある。→モニタリングを行い、適切なタイミングで支援する事の大切さ
- 母体が大きいと、タイミングよく適切に対応できない。→ NGOベースの支援の大切さ

教室風景



☞ 日本でいう高校1年生(セカンダリースクール2年)

生徒の自宅 ～首都ナイロビ～



☞ スラム街ではないものの貧しい地域

水汲みは女性と子どもの仕事



☞ 同じ水辺で、子どもたちが生活用の水汲みをしている

生徒の自宅



☞ 手前が寝室棟、女性の後ろが台所棟、その後ろはトイレ小屋

教員の家 ～隣の台所～



☞ 田舎の高収入家庭では、灯油やガスのコンロが用いられている

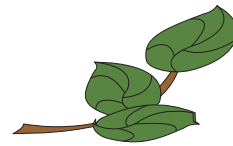
今日の料理



生徒の自宅 ～もてなし料理～



☞ ご馳走してくれたりプレゼントに鶏をくれたりと、温かい

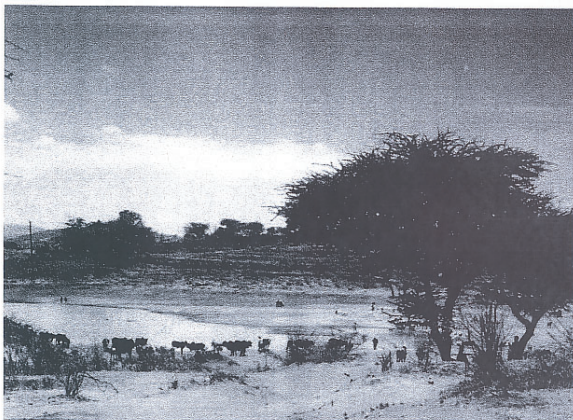


生徒の部族



☞ カンバ族(6割)、マサイ族(3割)、キクユ族その他(1割)

日曜の散歩



☞ 溜池(ダム)では、牛やヤギなどの家畜が水を飲んでいる

.....

PHOTO GALLERY

.....

